令和５年（2023年）８月２４日　葉山中通信　第５号

＜学校教育目標＞
自ら学び、心豊かで
たくましく生きる
生徒の育成

時を守り、場を清め、礼を正す

長かった夏休みを終え、2学期が始まりました。しばらくは午前日課で過ごすことになります。これは、1ヶ月以上もの休業期間の次に、いきなり通常日課となると負担も大きくなるからです「。「つなぐ」時期に中間的な設定をすることで「ゆるやかな変化」で対応し、負担軽減を図っています。午前日課のうちに、起床時刻が乱れがちだった人は、決まった時刻に起きるようにしましょう。学習面でも、学習に取り組む時間を次第に確保し、2学期の成長に向けての第一歩としてください。

さて、3年生のみなさんは体験入学などに参加した人が多いと思います。保護者や先輩の話、ホームページやパンフレットのイメージよりも実際に行くことでその学校の雰囲気は格段によくわかります。「ここで学びたい」という目標があれば、2学期の学習にも真剣に取り組めることでしょう。1・2年生のみなさんも、2学期の行事や学び、3年生引退後の部活動などで一層の成長を期待しています。

生命の尊重と人権
～ハンセン病と人権～

「躍進」の6月号では、日本国内の17の人権課題を紹介しました。コロナ禍では、感染症の拡大による不安から差別的な事象が生じて問題となりました。「自粛警察」といわれた、他県のナンバープレートをつけた車への嫌がらせなどです。6月号で紹介した人権課題の中に「ハンセン病患者・元患者やその家族」がありました。「コロナ禍」で生じた差別との違いや共通点がありますので、紹介します。

～間違った考え方からくる法制度による差別～

まず、最初に知っておく必要があるのは、ハンセン病の治療法はすでに確立しているということです。また、感染症ではあるものの、感染力は弱く、生活において特に制限の必要はないとされています。新型コロナウイルスの対策では、マスク着用、換気、消毒、三密回避などをしていましたが、そのような制限は不要です。

では、なぜハンセン病患者等が差別を受ける状況になったのか、厚生労働省の一般向け解説を要約します。ハンセン病は古くから見られた病気でしたが、明治時代に一般社会から隔離するという政策がとられました。これが、**「ハンセン病は隔離しなければならない感染力をもつ病である」という間違った考え方につながりました。**医学の進歩により、感染力が低いこと、治療法があるということがわかってきても、一部の声にとどまり、逆に１９４８年成立の「優生保護法」や１９５３年成立の「らい（※ハンセン病のこと）予防法」により、**間違った考え方のまま、国が人権を大きく侵害する対応（徹底した隔離、結婚の制限、人工妊娠中絶など）を行い、多くの人が不当な扱いを受け続けました。**１９９８年に、この不当な扱いは、違憲であるという訴訟が熊本で行われ、２００１年に原告が勝訴し、国は「誤り」を認めました。

しかし、国が誤りを認めた後も、間違った考え方のままの人が、ハンセン病元患者が宿泊施設を利用しようとしたところ、拒否をするという差別事件が起こっています。差別解消には、正しい理解を広げる必要があります。

８月・９月の予定　　完全下校時刻　１７：４５

８／２４（木）　始業式　実力テスト
２５（金）　実力テスト
３１（木）　中体連秋季総体（水泳）
９／４（月）　給食開始・一斉委員会
５（火）　生徒会選挙告示
１２（火）　人権・同和教育にかかる学校訪問
２０（水）　⑤⑥はやまフェスタ
２９（金）　生徒会長選挙演説会・選挙

欠席フォーム
引き続き、ご協力をお願いします。↓

部活動停止日　6（水）、12(火)、20（水）、25（月）～29（金）

９月より、木曜日も給食日になります。

スクールカウンセラー来校日　６日（水）13 日（水）27 日（水）
相談をご希望される方は、事前に担任や担当までご連絡ください。

７月　１年生校外学習（オーパル）より

全国学力学習状況調査の本校の結果と今後の取り組みについて

４月に３年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」の個人票を８月２４日に配付しました。この調査は、結果の良し悪しだけにこだわるのではなく、今後の教育活動や家庭学習の充実に役立てていくための調査です。個人票では、全国の正答率分布表から自分の位置も概ねわかるようになっています。また、細かな設問ごとの正誤を表示していますので、得意なところや不得意なところの見直しと克服に活用してください。

全国平均と比較して良好なもの

（１）学力テストの結果より

国語	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。
数学	反比例の意味を理解している。 四分位範囲の意味を理解している。 累積度数の意味を理解している。
英語	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。 疑問視を用いた一般動詞の２人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる。

（２） 学習面

国語の勉強は好き。 国語の授業の内容はよくわかる。 数学の勉強は好き。 数学の勉強はよくわかる。 読み解く力を問う問題については、前年度と比較して良好な傾向にある。

（３）生活面

毎日朝食を食べている。 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 困りごとがある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 人の役に立つ人間になりたい。 友達関係に満足している。 今住んでいる地域の行事に参加している。

学習面では、基礎的な学習内容については、ある程度定着している傾向がありました。質問の意図を理解し、選択肢の中から適切な答えを選ぶ設問に対しては比較的正答率が高い傾向がありました。文章や問題の中から正しい情報を読み取る力については、ある程度習得していると言えます。また、日々の授業にまじめに取り組み、その授業の中で理解が進んでいる様子が見られます。

生活面では、周りの友達と良好な関係を築き、前向きな気持ちで落ち着いた学校生活を送れていることがわかります。地域の行事などにも積極的に参加し、その経験が「人の役に立つ人間になりたい」という思いを抱く一因となっていることが考えられます。基本的な生活習慣についても、以前より改善傾向にあります。

全国平均と比較して気になるもの

（１）学力テストの結果より

国語	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
数学	複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
英語	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

（２）学習面

課題解決するために、粘り強く取り組む姿勢が弱い。 家庭学習においては、自分で計画を立てて学習することが苦手な傾向があり、学習時間も比較的短い。

（３） 生活面

就寝時刻が日によって違うことがある。

正答率の低かった問題に共通するのが、与えられた資料（文章・図・グラフ等）から必要な情報を取り出し、分析したり、整理したりすることで自分の考えを再構築し、それを自分の言葉で表現する力が不足しているということです。記述式の設問で正答率が低い傾向があり、自分の考えを文章によって表現することに課題があります。また、課題解決するために粘り強く努力しようとする姿勢が弱く、難しい課題については諦めてしまう傾向があります。家庭学習の時間は以前より確保できている様子はうかがえましたが、３０分から１時間程度の学習時間の生徒が多く、全国や県の平均と比較すると若干短い傾向があり、自分で計画を立てて学習することに課題があります。生活面においては、日によって就寝時刻が異なる傾向があり、睡眠時間を安定して確保できていない様子が伺えます。

○今後の本校での取り組み

教科指導の中で、与えられた資料から必要な情報を取り出して、それを分析・整理する過程を重視し、その上で自分の考えを再構築して、自分の言葉で表現する活動を継続してすすめていきます。また、振り返りの学習を行うことで、自分の考えをまとめたり、文章で表現したりする力を高めるように全教科で取り組んでいきます。

「粘り強さ」においては、非認知能力として位置づけられますが、今年度は校内研究の中で「自己肯定感」の向上を目指して非認知能力の研究に取り組んでいます。粘り強く取り組むことによって、達成感を味わい、自己肯定感の向上につながるように研究を推進していきます。

家庭学習の充実のため、自主学習ノートを継続して実施し、家庭学習が習慣化するように指導していきます。

○ご家庭でのご協力のお願い

スマートフォンやゲームなどの使用に関して、お子様と話し合った上で約束事を決めていただくなど、モラルや使用時間についてご指導いただきますようご協力をお願い致します。